

2022

Cultural Policy Concentration,
Public Policy Program,
National Graduate Institute for Policy Studies



政策研究大学院大学
NATIONAL GRADUATE INSTITUTE
FOR POLICY STUDIES

公共政策プログラム
文化政策コース

Photo : Masao Nishikawa

政策研究大学院大学 公共政策プログラム 文化政策コースは、 日本で唯一、公共政策としての 文化政策が研究できる教育プログラムです。



文化観光



ひとづくり



まちづくり



文化産業

文化資源（ミュージアム、劇場、歴史文化遺産、フェスティバルなど）を創り、守り、そして活用して、地域社会に貢献する。

文化政策

文化の力を地域の 持続的な発展につなげる

21

世紀における日本の文化政策は、日本文化の創造と発展、より豊かで魅力のある社会の創造、そして新しい経済的価値をはぐくむことを政策課題として追究する必要があります。

また、文化政策の企画立案、実施に当たっても、より広く地域のニーズ、民意を反映し、効率的かつ効果的な運営が求められています。

文

化や芸術は社会の特殊な一部分ではなく、新たな価値を生み出す経済社会の重要な資源の一つとしてとらえられる必要があるでしょう。

文化政策研究は、文化芸術の振興や文化遺産の保存・継承・発展に加えて、ミュージアムや劇場など文化施設とまちづくりとの連携、アートフェスティバルや歴史文化遺産を活用した交流人口の拡大など、多岐にわたる実践的課題を対象として行われる必要があります。これらの研究を通じて、文化資源を地域活性化や、ブランディング、ひいては地域の持続可能な発展につなげることができると考えています。

地

域コミュニティとそこに住む人々の日常生活に密着し、公共政策学、公共経済学に理論的基礎を置きつつ、マネジメント論、マーケティング、オペレーションズ・リサーチなど他分野での研究成果なども取り入れ、仮想市場評価法（CVM）、コンジョイント分析、あるいは経済波及効果分析などの定量的評価法も応用しながら、実務関係者・団体との密接な連携の下、具体的かつ実証的に文化政策の課題を検討します。

文化政策コースにおける3つのポイント

全国の公立劇場とのネットワークづくり、実践的な学びを目指します。

1 フィールドトリップ



サントリーホール、国立劇場、新国立劇場、東京国立博物館、東京芸術劇場、江戸東京博物館、森美術館、東京文化会館、国立新美術館、金沢21世紀美術館、(公社)企業メセナ協議会、富岡製糸場と絹産業遺産群、小江戸川越蔵造りの町並み、葛飾柴又(重要文化的景観)、横浜美術館 他

2 セミナー



伊東 豊雄(建築家)、落合 陽一(メディアアーティスト)、青木 保(国立新美術館館長)、安藤裕康(国際交流基金理事長)、水之江 和同(文化庁調査官)、田中 浩一(劇団四季取締役)、松本 忠(プロダクトマネージャー、経済協力開発機構(OECD))、福地 茂雄((公財)新国立劇場運営財団理事長)、南條 史生(森美術館館長) 他
※敬称略、肩書は当時

3 グローバルネットワーク



海外先進事例の紹介・国際文化政策比較研究、六本木DMOとのコラボレーション<インバウンド推進のための日本文化紹介モデル事業> 他

研修事業 | 令和3年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業

劇場活動にかかる評価リテラシー育成のための教育プログラムの開発

～自己評価ガイドブックの作成及び調査アプリの開発～

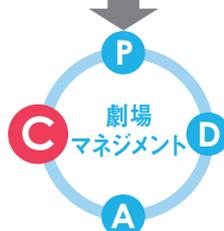


大学から
文化力
POWER OF CULTURE



あらたな社会要請に応えるため、**地域社会にある劇場**へのニーズをすくい上げ、劇場活動に結び付けるために、自ら主体的に**劇場活動の自己評価**に取り組み、戦略的に事業展開ができる能力を持った**アートマネジャー**を育成しようとするものです。

■ **研修事業専用ページ** ※学生も閲覧できます。
<https://www.culture.grips.ac.jp/project2020>



劇場活動にかかわる評価リテラシー育成のための教育プログラムの開発
～自己評価ガイドブックの作成及び調査アプリの開発～



指定科目および修了要件

<p>政策論文演習（秋冬 4単位）</p> <p>政策論文は、実務に即して具体的かつ実証的に文化政策の課題を検討するものです。指導教員によるきめ細やかな指導の下、学問的方法論に基づいた客観的、合理的な分析を行い、ポリシー・ペーパー（政策提言）をまとめます。また、特定課題をより深く研究することを希望する学生には、フィールド・リサーチを必要とする修士論文の執筆も可能です。</p>	<p>文化政策研究の基礎（春 2単位）</p> <p>文化資源論（秋 2単位）</p> <p>21世紀博物館工学（春 2単位）</p> <p>シアター・マネジメント（秋 2単位）</p> <p>グローバリゼーションと文化政策（夏 2単位）など</p>
---	---

公共政策プログラムに掲げる授業科目のうち、各区分の最低取得単位数を満たしつつ、合計30単位以上を修得するとともに、特定の課題についての研究成果の審査に合格し、かつ最終試験に合格することを修士課程修了の要件とする。

また、コース指定科目10単位を修得するとともに、文化政策コースに関連する特定の課題についての研究成果の審査に合格することをコース修了の要件とする。

※詳しくは本学ホームページ（<http://www.grips.ac.jp/>）の要覧をご参照ください。

■ 課題研究例

- 重伝建地区における空き家対策の在り方 — 高岡市の今後の方向性 —（2020年度修士）
 - 阿波踊り運営改革の成果と課題に関する考察 — 文化資源を活用した観光振興に求められる視点 —（2020年度修士）
 - ガバメントクラウドファンディングの活用方策の検討 — 「共感」に基づく文化財源の調達手段として —（2020年度修士）
 - 公立博物館における収蔵品維持に関する方策の検討 — 公共性のある除籍について —（2020年度修士）
 - 「四国八十八箇所霊場と遍路道」を事例とした持続可能な文化財の保護に関する考察 — 文化と観光の好循環を実現する整備の方向性 —（2019年度修士）
- ※過去の学位論文はコースホームページ（<https://www.culture.grips.ac.jp/thesis>）をご参照ください。

教員紹介

文化は、豊かで魅力ある社会をつくる源泉です。この文化を創造、継承、発展させていくために、定量的手法も用いながら制度設計や政策評価を行っています。文化の力を感じ、文化振興に意欲的に携わろうとする皆さん、私たちと一緒に学んでみませんか。

専任教員 垣内 恵美子

教授、コースディレクター

一橋大学を経て、2004年より現職。専門は文化政策。（一財）地域創造理事。国土審議会委員。（独）国立美術館運営委員及び国立新美術館評議員。茨城県、神奈川県、富山県、仙台市、川崎市、横浜市、松江市等、多くの自治体で文化振興条例・計画策定、文化施設運営、指定管理、評価にかかる委員を務める。



非常勤講師・研究協力者

 <p>今野 雅裕</p> <p>名誉教授、客員教授、元副学長、元学長特別補佐、元文部科学省生涯学習政策局生涯学習調査官 専門分野：教育政策、生涯学習論</p>	 <p>岩本 渉</p> <p>国立文化財機構アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長、元ユネスコ本部社会人文科学局社会科学政策研究部長、教育局中等・職業技術教育部長 専門分野：国際教育文化交流</p>	 <p>佐藤 敦子</p> <p>高崎経済大学准教授、元ゴールドマン・サックス証券東京支店マネージング・ディレクター・資本市場本部長 専門分野：アートマネジメント、国際経営</p>	 <p>森 洋久</p> <p>東京大学総合研究博物館准教授 専門分野：科学文化史、情報哲学、情報工学</p>
 <p>Xavier Greffe</p> <p>ソルボンヌ大学 名誉教授（経済学） OECD顧問</p>	 <p>Klaus R. Kunzmann</p> <p>ドルトムント大学 名誉教授（都市計画） 元欧州都市計画学会会長</p>	 <p>Kamil Zeidler</p> <p>グダンスク大学 教授（法学） ICCROM理事</p>	 <p>Seung-yong Uhm</p> <p>韓国文化資源研究所 所長（社会学） 元韓国文化財庁局長</p>

目指す学生像

企画立案ができる

地域に展開する文化資源（ミュージアム、劇場、歴史文化遺産、アートフェスティバルなど）を活用し、住民にとってベストな施策を立案できる

説明責任が果たせる

アウトカム、KPIなどを含め、施策の社会的影響、意義をわかりやすく簡潔に説明できる

論理的思考ができる

そのために必須な論理的思考と方法論を身につけ、具体的事例に基づき、施策の効果を分析できる

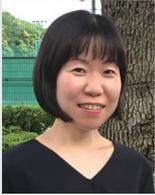
対象者

文化政策や文化関連活動（アートマネジメント、ミュージアムマネジメント等を含む）に携わる行政官や民間の関係者、文化施設、文化事業のマネージャー、専門研究を目指す学生等。

■ 在学生・修了生の主な派遣元等

文部科学省、文化庁、静岡県、茨城県、宝塚市、川崎市、武蔵野音楽大学、米国大使館、新国立劇場運営財団、マザーアース株式会社、鳥取県、飯田市、徳島県、独立行政法人国際交流基金、松江市、富山県、杉田劇場 等

在学生・修了生の声

 <p>修了生 高木 翔平さん 2020年度 修了 所属：富山県</p> <p>GRIPSでは、文化政策に関する制度や政策立案に必須な論理的思考などを体系的に学ぶことができました。第一線で活躍する先生や、様々な学生と議論したことは、今後仕事に取り組んでいく上で貴重な経験となりました。</p>	 <p>修了生 中原 聡一さん 2020年度 修了 所属：徳島県</p> <p>徳島県庁の文化・未来創造課で、新しい県立文化芸術ホールの建設プロジェクトに携わっています。GRIPS文化政策コースの講義やフィールドワーク、議論、研究の中で学び、考えたことを活かし、文化創造とにぎわいづくりの拠点形成に努めています。</p>	 <p>修了生 松田 和太さん 2020年度 修了 所属：鳥根県松江市</p> <p>GRIPSには、豊富な経験を持つ先生や、様々な経歴を持った学生が在籍しています。そのような環境で、文化政策をはじめとした幅広い分野について学び、議論が出来たことは私にとって大きな財産になりました。</p>
 <p>修了生 彌本 あゆみさん 2020年度 修了 所属：神奈川県川崎市</p> <p>GRIPSでは文化政策についての専門的な学習だけでなく、政策立案に必要な幅広い分野の基礎知識も習得することができました。授業はもちろん、他の自治体や企業から来ている学生たちの多様な意見も非常に勉強になりました。</p>	 <p>在学生 大熊 玲子さん 2021年度 入学</p> <p>文化政策に関する専門性を高めるだけではなく、公共政策を研究する上で必要な知識を幅広く学べることがGRIPSの魅力です。1年間の学びを通して得たことを、今後の研究活動に生かしていきたいと思っています。</p>	 <p>在学生 松井 真理子さん 2021年度 入学 所属：横浜市 杉田劇場</p> <p>社会的課題の解決、持続可能な社会への取り組みなど地域社会に対する文化芸術の役割と文化政策の意義について研究するため、GRIPSに入学しました。GRIPSで学んだことを現場へフィードバックしていきたいと考えています。</p>

■ 学生の進路

国、地方自治体、高校・大学 その他学術機関、民間企業等：文化庁、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会、東京大学総合研究博物館（特任准教授）、総合研究大学院大学、ボストン・コンサルティング・グループ、日本政府観光局、株式会社NHKエンタープライズ、財団法人日本映像国際振興協会、東日本旅客鉄道株式会社、サントリーパブリシティサービス株式会社、第一法規株式会社出版、株式会社 paperboy&co、京都精華大学（特任講師）、鳥取大学（准教授）、独立行政法人日本芸術文化振興会、東京急行電鉄株式会社 等

入試情報

出願するための資格 …… 学士の学位を有するか、2022年3月末までに取得見込みの者等
 選抜の方法 …… 第1次審査は書類選考、第2次審査はオンラインでの面接（Zoomを予定）

2022年度 修士課程国内プログラム入学者選抜試験日程

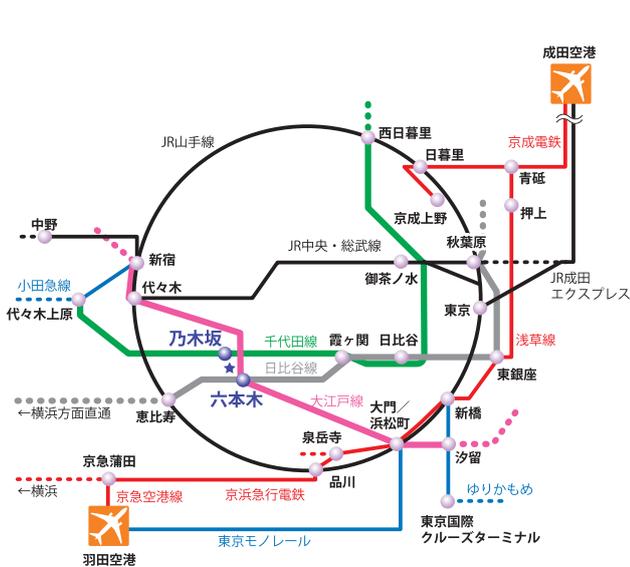
	第1回	第2回
出願期限	2021年10月15日(金)	2022年1月7日(金)
第1次審査結果通知	2021年11月5日(金)	2022年2月3日(木)
第2次審査(面接)	2021年11月11日(木)または12日(金)	2022年2月9日(水)または10日(木)
第2次審査結果通知	2021年11月25日(木)	2022年2月24日(水)

■ 学費（予定）

検定料	30,000円	入学料	282,000円	授業料(年額)	642,960円
-----	---------	-----	----------	---------	----------

※詳細については学生募集要項を参照してください。学生募集要項は、本学ホームページ（<http://www.grips.ac.jp/>）に掲載されます。

アクセス



- 成田空港から成田エクスプレス利用、東京経由六本木まで約1時間30分
- 成田空港から成田スカイアクセス利用、日暮里経由六本木まで約1時間15分
- 羽田空港から東京モノレール利用、六本木まで約40分
- 東京駅から六本木まで約17分



- 都営大江戸線「六本木駅」7出口から徒歩5分
- 東京メトロ日比谷線「六本木駅」4a出口から徒歩10分
- 東京メトロ千代田線「乃木坂駅」5出口から徒歩6分

問い合わせ先

政策研究大学院大学 公共政策プログラム 文化政策コース

本コース入学希望者には随時、ガイダンスを行っております。

下記までお問い合わせください。

〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1 E-mail : culture@grips.ac.jp

入試に関するお問い合わせ（本学アドミッションズオフィス）

E-mail : admissions@grips.ac.jp URL : <http://www.grips.ac.jp/>



文化政策コースホームページ
<https://www.culture.grips.ac.jp/>